

## 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

### 1. 研究課題

「ヴァードゥーラ・シュラウタースートラ」研究  
A Study of the Vādhūla Śrautasūtra

### 2. 研究代表者氏名

藤井 正人  
Fujii, Masato

### 3. 研究期間

2015年04月 - 2020年03月（5年度目）

### 4. 研究目的

本研究の中心は、井狩が南インド・ケーララ州で入手したヴェーダ文献関係伝承写本群のうち、ヤジュル・ヴェーダ所属の祭式古学派ヴァードゥーラ派の主要祭式文献の研究である。従来、同派文献は欠陥の多い二次写本のみを用いて研究が試みられて来たが、本写本群の発見によりほぼその全容が知られ、研究は新しい段階に入っている。学界から要請されてきた同派主要文献の全体の公刊に向けて準備が進められている。本研究期間においては、ヴェーダ・シュラウタ祭式体系の中核をなすふたつの重要祭式をヴァードゥーラ派の伝承に焦点をあてて文献学的検討を行うことが課題である。具体的には、ヴェーダの最古文献リグ・ヴェーダ以来、ヴェーダ祭式の中核に置かれた「ソーマ祭」と、ヴェーダ中期に展開した社会と文化の改革再編を象徴する大規模な祭式「アグニチャヤナ祭」を扱う。共同研究では、祭式綱要書ヴァードゥーラ・シュラウタースートラの当該部分のテキストの批判刊本の作成と注解付翻訳の作成に向けて班員による会読を進める方式と当該祭式で扱われる主題の研究報告の方式のふたつを併用して進める。最終成果としては、ヴァードゥーラ・シュラウタースートラの当該部分（第6-7章、第8章）の批判刊本と詳細な訳注の刊行を予定している。

The main purpose of this joint study is the examination of the ritual manuals of the Vādhūla school of the Yajurveda, whose original manuscripts were discovered by the coordinator of this joint study in the Kerala State of South India. The texts of the Vādhūla school had been taken up by the scholars with the secondary defective manuscripts only available back at the time. The discovery of the new original manuscripts has drastically changed the situation and we are now in a far better position to get almost the full picture of the original texts of this Vādhūla school. We

have been preparing the editions of the fundamental texts of this school which have been requested by the scholars of Vedic philology. In this joint study, we proceed to take up the texts of two significant rituals of the Vedic Śrautasūtra, and conduct comprehensive examinations of them. They are the rituals of the Soma (Agniṣṭoma) and the Construction of the Fire-altar (Agnicayana). The former is the central core of the entire Vedic ritual tradition starting from the Rig Veda, the oldest Vedic literature, and the latter represents the culmination of the history of Vedic culture, the reformation and restructure both social and cultural of the middle Vedic age. Our researches will be carried out by combining two types of studies: one is joint reading and examination of the manuscripts of the concerned portions of the Vādhūla Śrautasūtra (6th, 7th and 8th Chapters) by all the members, and the other one consisting of the respective reports of important topics from the concerned rituals by the coordinator and the members. Our plan at the end of the joint study is to publish a critical edition and an annotated English translation of the three chapters of the Vādhūla Śrautasūtra.

## 5 研究成果の概要

本共同研究は、当初、人文科学研究所客員教授 井狩彌介が2015年度から3年間の研究期間で組織したものである。アグニチャヤ祭を扱う「ヴァードウーラ・シュラウタースートラ」第8章を研究対象にして、井狩が準備する校訂テキストと訳注に対して、研究会において班員全員で検討を行う方式で研究を進めた。この共同研究は、最先端のヴェーダ・シュラウタ祭式研究の方法と知見を、共同研究を通じて次世代に伝えることも目的の一つとしているため、研究会には、ヴェーダを中心にさまざまな分野の中堅・若手の研究者と大学院生を全国から集めた。井狩の客員教授の任期(3年)終了後、研究期間を延長し、井狩が引き続き研究を主導しながら、藤井正人が班長となって班運営を行う形で研究を継続させた。

## 6 共同研究に関連した公表実績

この共同研究は、共同研究「ブラフマニズムとヒンドウイズム」(班長:藤井正人)と並行して開催され、班員の多くが重なっていたため、井狩をはじめ多くの班員が、「ヴァードウーラ・シュラウタースートラ研究」の成果を、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」班の連続シンポジウムを利用して公表している。

## 7 研究成果公表計画および今後の展開等

「ヴァードウーラ・シュラウタースートラ」第8章の批判校訂本と詳細な訳注の刊行を予定している。出版に先立って、5年にわたる研究によって大量の資料(テキスト、訳注、研究を含む)が蓄積されているので、それらをオンラインで公開することも検討している。